



樹齢200年を超える「臥龍梅」(岡山県小田郡矢掛町)

特集

新年のご挨拶

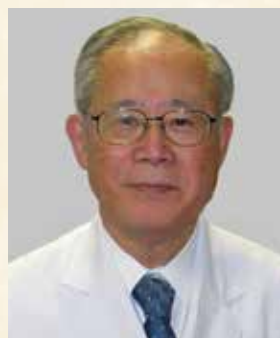
2017年(平成29年)、新年のご挨拶を申し上げます。本年も疾病予防、QOLの向上、切れ目のない統合医療に取り組み、21世紀型の地域包括ケアに取り組んで参ります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

● 理事長挨拶	P2
● 病院長挨拶	P3
● 事業本部長挨拶	P4
● 地域医療連携室長挨拶	P5
● 看護部長／事務局長挨拶	P6
● ローカルコモンズ・ウィル	P7
● アレルギーのよもやま話	P8・P9・P10
● 理念・病院カレンダー	P11
● 外来診療表	P12

理事長挨拶

平成29年 西暦2017年を迎え 新年のご挨拶を申し上げます

理事長 寺岡 暉



繰り返し述べておりますように、社会医療法人社団陽正会は寺岡記念病院における急性期病院医療を中核として、保健・医療・福祉の統合を基本理念とする医療に取り組んでいます。昭和21(1946)年11月に芦品郡新市町戸手(当時)の素盞鳴神社鳥居に隣接した敷地に寺岡 正が内科医院(有床診療所)を開設したのが始まりです。敗戦直後(第2次世界大戦)で国土は荒廃し、結核による死亡が第一位、平均寿命は男性50.06歳、女性53.96歳でした。平均寿命が80歳を超える今日からは想像もできない時代のことです。それから70年経ち、当然のことながら社会と世代が変わり、医療や福祉の有り様も大きく変わりました。平均寿命はどんどん伸びて「超高齢社会」と云われる時代となり、100歳以上の人口が65,000人に上っていることが話題になるほどです。こうなると、「人生二毛作」の生き方を身近に感じる人々が多くなって来ます。しかし、病苦に苦しみ、救命医療に縋(すが)る人々が数多い事実が変わった訳ではありません。一方では寿命が延びたことと引き換えに認知症対策が大きな課題となっています。

そのような時代にあって、寺岡記念病院は急性期医療を中核に回復期医療、在宅支援医療を切れ目なく行う体制と理念で地域医療に取り組んでいます。平成26(2014)年か

らはコミュニティベースの多世代交流(医療・福祉統合)施設「ローカルコモンズしんいち」を開設しました。この施設は社会医療法人社団陽正会と社会福祉法人新市福祉会の共同事業です。その他、へき地医療の一角を担う神石高原町立病院の指定管理と府中市にあります介護療養型老人保健施設みのり・北川クリニックを運営しています。このように、陽正会は地域医療において総合的・包括的医療に取り組んでいます。今後も平均寿命は一層延伸する以上、伸びた人生のQOLが大切であり、そういった意味からも急性期医療と回復期医療さらには在宅医療を切れ目なく統合的に行う医療が大切です。また高年齢ほど罹病率が高くなりますので、疾病予防が大切であることは言うまでもありません。寺岡記念病院においては、疾病予防施設としても内容を充実させてまいります。

去年は新しい時代の地域総合医療、さらには生活の質QOL向上に向けた脳神経機能の大切さを強く意識して、鳥取大学医学部脳神経外科 名誉教授の渡辺高志先生を招聘し脳神経疾患治療センター・脳疾患研究施設を開設しました。

以上の診療体制により、疾病予防、QOLの向上、切れ目のない統合医療に取り組み、21世紀型の地域包括ケアに取り組んでまいります。

病院長挨拶 高齢者医療とは？

病院長 武田 昌



皆さん、明けましておめでとうございます。2017年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年のお正月は穏やかな気候であったようですが、気温の低下と共にインフルエンザの大流行が起こってきています。また、ノロウイルスをはじめ、様々なウイルスが「活気」を取り戻して活躍してくれるのは、非常に迷惑な話ですね。十分な睡眠と栄養をとり、この時期を乗り切りましょう。

さて、近年になって「高齢者医療」という言葉が多く使われるようになりましたが、当地区でも、患者さんの高齢化が著しく、今後も更にその傾向は続く物と思われまます。将来的には、「高齢者」に対して特殊な医療が必要なのではなく、スタンダードな医療が高齢の人向けとなり、若い人に対する医療の方が特殊な物として「若年者医療とは・・・」という議論が必要になるかもしれません。高齢の人が病気になったときに、いわゆる「急性期」の医療の内容については、それ程大きな違いはないのですが、やはり合併症を起こす率は若年の患者さんと比べて圧倒的に高く、また治癒率も悪いため、治療にかかる時間が長くなります。さらに、一つの病気が落ち着いたからと言って、すぐに退院、と言うわけにはいかず、「回復期」として、リハビリなどを含めた治療が必要に

なります。また、この時期を過ごしてから、病気以前のような元通りの状態に帰るのが難しくて、「慢性期」の医療を必要とする方も出てきます。また、自宅への復帰が困難で、介護施設への入所などを要する方もあり、トータルとしての「治療期間」が、若年者より遙かに長くなるのが高齢者医療の最大の特徴と言えるでしょう。このように長期間を要し、様々なパターンの医療・看護・介護のミックスした治療を行うことが今後のスタンダードな治療となっていくでしょう。

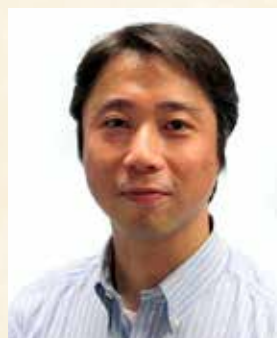
寺岡記念病院の理念「トータル アンド シームレスケア」というのはまさに、このような状況を支える医療のことです。これからも、地域に根ざした地道な医療を行っていくことが、当院に求められる役割と考えています。



事業本部長挨拶

新年 おめでとうございます

法人本部 事業本部長
ローカルコモンズしんいち 事業管理者
寺岡 謙



2017(平成29)年の年頭にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本年の干支は、十干でいえば丁、十二支でいえば酉で、両方を合わせて丁酉(ひのととり)という事です。「丁」は植物が成長してきて安定した状態に達した事を意味し、「酉」は果実が成熟の極限に達した状態の事を意味するようです。社会医療法人社団陽正会が行うそれぞれの事業が、更なる安定と成熟をしていきますよう、一心不乱に努力していきたいと考えております。

さて、去年は世界的に非常に波乱・混乱が多かった年でした。イギリスがEU離脱を決め、アメリカ大統領選挙ではトランプ大統領が勝利しました。また、中国経済の失速、ロシアのシリア爆撃という二つの不安定要素が加わり、世界は確実に不確実性を増しつつあります。

しかし、このような世界情勢の中で、先進各国が直面している共通の課題があります。それは、日本ほどではないにせよ、どの国も大なり小なり「高齢化」の波に直面しているという事です。そして、先進各国だけでなく、実は中国をはじめとするアジア諸国も、近い将来にはこの高齢化の波に直面する事が確実視されています。

この「高齢化」という課題が難しい点

は、その波及する分野が、医療・介護のみに留まらないという所にあります。仕事だけではなく、住まい・食・健康・移動手段・余暇の過ごし方といった、地域社会の生活スタイルそのものにあらゆる変化をもたらします。

当然、我々は医療機関であり介護保健施設でありますので、一義的には医療・介護分野でこの高齢化の波にどのように対応するかを考えていかなければなりません。しかし、究極的には、業種の枠を超えた地域内外の様々な団体・組織との連携を行い、地域社会全体で総合的・統合的な取り組みを行う事が、より成熟した高齢化社会を築いていく効果的な方法なのではないかと考えております。

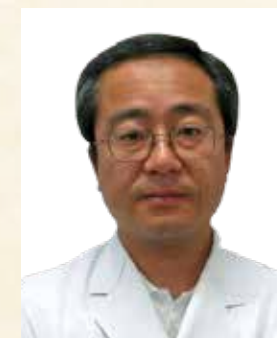
ローカルコモンズしんいちとはそういった意味で大変重要な事業でありますし、寺岡記念病院やジョイトピアおおさ・しんいちも、良質で安全な医療・介護を地域住民の皆様を提供するという原点を大切にしつつも、そういった大きな視点で運営を考える事も必要かと愚考しております。

いずれにしましても、2017年が皆様にとって良い年である事を祈念いたします。

地域医療連携室長挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます

副院長 腎センター長
地域医療連携室長
熊谷 功



旧年中のお礼を申し上げるとともに、新年を迎えてのごあいさつを申し上げます。

当院は福山市北部・府中市・神石高原町を中心とした地域の救急医療、急性期を経過した後の回復期医療、在宅・施設に戻るまでの慢性期医療およびショートステイ・デイケアまで、シームレスケアの理念に沿って、地域医療のニーズにお応えできる病院であるよう努めております。救急医療においては二次救急病院としてより積極的な受け入れ体制を推進しております。

急性期専門病院からの紹介に対しては回復期リハビリ病棟に限らずその患者さんの病状や医療内容に応じて適切な病棟を選択して受け入れております。

在宅復帰・施設入所に向けては、各病棟

に専任の相談員を配置して、入院早期からカンファレンスを重ねながらより良い形をお示しできるよう心がけております。地域・職場健診などの予防医療、医療介護分野の教育・実習、地域の皆様への啓蒙活動などにも地域連携室が中心になって取り組んでおります。

今まで以上に、患者さんご本人とご家族のお役にたてるよう活動していきたいと考えております。

紹介受診予約、検査依頼予約、入院転院の予約・手続き、退院に向けての相談、退院後の介護施設利用・入所の手続き・予約、その他さまざまご相談をお受けいたしております。

引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護部長挨拶 新年のご挨拶

看護部長 黒田 悦子



明けましておめでとうございます。

昨年4月に看護部長職を引き継ぎました、どうぞよろしくお願い致します。この9ヶ月間は、事故がないように願いながら、無我夢中で経過しました。年が明けるとインフルエンザが猛威を振るい、感染防止策に追われ慌しい年明けとなりました。

地域の皆様が住み慣れた地域で安心・安全な生活ができるように、地域の中核病院としての立場を自覚し地域に貢献できる病院になるように努力していきます。

人口の高齢化がすすみ新市町の高齢化率が31.8%となり、(2016年5月調べ)高齢者や独

事務局長挨拶 生命の尊さ・支え合い・ 多職種協同支援

事務局長 西嶋 朝枝



皆様、新年おめでとうございます。本年もまた一歩、前進しましょう。

今年は東日本大震災発生から6年目の年にあたります。また昨年4月には、熊本地方を震源とするM6.5の地震が発生。地震の長期化(避難生活)に関連した関連死は99人(H28.12.2現在)にのぼったことも異例であったように思われます。

大災害により被害を受けられた方々の身体的・精神的等苦痛はなかなか癒されることはありませんが、希望を持ち続け助け合いながら、いたわり合いながら、共に生きて行きたいと強く願うばかりです。

さて、わが国の高齢者人口が益々増加する中、高齢化率(65歳以上高齢者の全人口に占める割合)は2025年30.3%、2055年39.4%に上昇、75歳以上高齢者人口は2025年2,179万人(18.1%)、2055年2,401万人

居の方、認知症の方の入院など在宅支援が必要なケースが多くなりました。当院では各病棟に社会福祉士を配置しています。また各々の専門職と連携し早期から関わりを持ち、在宅生活が円滑にできるような準備が出来るようにしています。退院後は在宅支援室とも連携し退院後の訪問も可能となりました。また地域貢献への取り組みとしては認知症ケアや経管栄養法、褥瘡ケアの勉強会などにも講師として参加しています。勉強会などご希望がありましたら、お気軽に声をおかけください。

これからも安心して入院生活を送っていただけるように、医療、看護、福祉など各部門が連携して支援していける体制を整備していきます。地域の皆様が当院を身近に感じていただける関係がもてたらいいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

(26.1%)に増加する見込みになっています。

現在、当院の入院患者さんの平均年齢は77歳を超え80代の新規入院患者数が最も増加の傾向にあります。そこで、高齢者患者さんの入院から退院そして自宅(もしくは施設)での支援体制が必要とされております。

在宅復帰に至るまでの高齢者医療ケアの現状を目の当たりし、高齢者個々のニーズに応えられるようにするには、多職種協同による総合的支援が不可欠であると痛感しております。そして、高齢者おひとりお一人の生きかた、道のり(過程)等を理解した関わり合い、また家族の思い・立場を理解した関わり合いを大切に支援して行きたいと思っております。

当院が地域の基幹病院として、地域の皆様に安心・安全な医療提供ができるよう全職員が一丸となり一層の努力を果たして参りたいと考えます

末筆になりましたが、地域の皆様そして、職員皆様のご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶にかえさせていただきます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

多世代交流事業 スマイルプロジェクト

祝
2周年

にぎわい創出プロジェクト

- ・月いちガーデンコンサート
- ・ふくやま手しごと市produce手づくりマルシェ
@ローカルコモンズしんいち
- ・ローカルコモンズしんいち秋祭り



子育て支援プロジェクト

- ・Kids English
- ・シーズン特別企画
(工作体験、カブトムシ触れ合い体験など)



認知症支援プロジェクト

- ・ガーデンカフェ(認知症カフェ)

健康応援プロジェクト

- ・健康応援^④
- ・健食プロジェクト



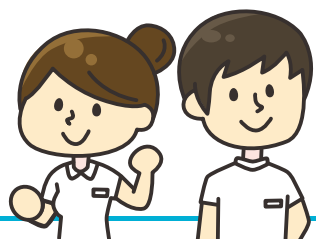
これからも、地域へ開かれた医療・福祉を提供していく為、様々な取り組みに挑戦していきたいと思います。楽しいイベントが盛りだくさんですので、是非、お気軽に遊びにきてください。

ホームページ：<http://www.teraoka-hosp.jp/localcommons/relation.html>

Facebook：『多世代交流事業スマイルプロジェクト』または『ローカルコモンズしんいち』で検索

アレルギーのよもやま話

～ アレルギー大国、ニッポン ～



看護師
田邊 直人

先進国、日本。
工業、経済、科学など各分野において世界的に優れた位置に置かれているのは誰も疑いはないだろう。

医療分野においても、不治の病と呼ばれた病気が軒並み治療、治癒、根治、寛解が可能となってきた。そんなわが国の医療を駆使しても未だ根治が難しい病、その一つに「アレルギー性疾患」が挙げられるのではないだろうか。近年わが国ではアトピー性皮膚炎、花粉症患者は増加の一途をたどっている。衛生的で経済的に豊かなわが国において、何故なのか。

その原因があるとすれば、何なのだろうか。そして上手にアレルギーと付き合う方法を考えてみたい。

「免疫」。誰もが知る生体防御の核をなすと言っても過言ではない人体にとって非常に大切なシステム。しかし、人によってはそれが諸刃の刃となるのです。

アレルギーのある人となない人、何が違うの？

ある物質が自分の体に「有害」と判断されると人体は普通、極力その物質に悪影響を及ぼされないように反応しようとし

す。その働きが“免疫能”です。しかし、稀にその反応に過度に悪影響を及ぼされるようにインプットされてしまいます。そうです、アレルギー反応がこれに当たります。

アレルギーを引き起こす物質の代表と言えるのが「ダニ」「ハウスダスト」「花粉」などです。その他にもアレルギーを引き起こす物質は様々です。

発展途上国の方がアレルギー患者は少ないって、どうして？

先進的な現代の日本の環境は本当にアレルギーを予防するのに相応しいだろうか？考えてみましょう。



1.化学物質を含む壁、資材。
密閉されて換気の悪い空間。

2.夜更かしの多い不規則な生活。

3.ストレスの多い社会。

4.便利過ぎて運動しない。
豊か過ぎて栄養のバランスが悪い。

5.過度な除菌、
消毒が流行している。

これらを分析すると…

1.排気まみれの空気が充満した室内中心の生活。

2.人体の回復、代謝に最も大切と言われる夜間の時間に睡眠しない。

3.心身を常に疲労させる。

4.代謝が悪くバランスの崩れた栄養。

5.免疫の多くは生後間もなく様々なバイ菌、アレルゲンに触れることで形成される。そのため過度な消毒や除菌は免疫獲得の機会を失う。

現代の日本における小児のアレルギー患者の増加が物語っています。

「免疫」という部分に特化すると、途上国の環境はより免疫に優れた人体と成り得るに

適していると言えます。それに対して日本はアレルギーに弱い人体と成らざるを得ないと言えるのではないのでしょうか。

国民の約3人に1人。あなたもアレルギー体質かも？

アレルギー疾患は発症して診断されるケースが極めて多いのです。当然といえば、そうかもしれませんが場合によっては呼吸困難などを伴う重症例も多く、命に関わる事もしばしばあるのです。

発症前に自分のアレルギーは何か知っておくのも安心して暮らす工夫かもしれません。



原因となるアレルゲンを知るには？

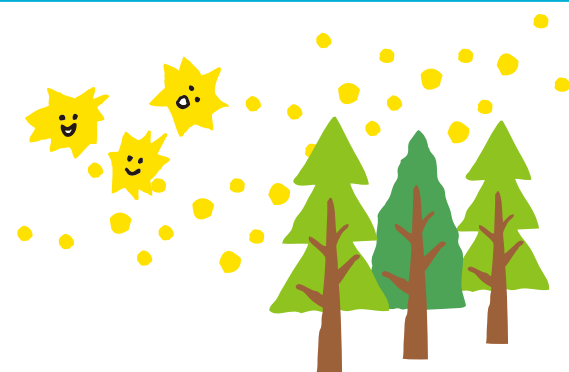
アレルギー検査「特異的IgE（アイジーイー）検査」が有効

アレルゲンを除去回避するには、原因となるアレルゲンを知ることが重要です。自己診断でなく、アレルギー検査を受け、医師

による適切な診断を受けることが必要です。アレルギー検査には様々な種類がありますが血中の特異的IgE検査は、「鼻アレルギー診療ガイドライン」でも、重要な診断基準とされています。

これからの季節、花粉症対策を。

2月から4月にかけてスギ花粉が飛散する季節となります。花粉症で辛い思いをされる人も多いでしょう。ここでは花粉症に対して“薬物療法”“手術療法”“セルフケア”の3種類の方法を紹介します。



薬物療法

お薬によって内服するタイミングが違うのがポイントです。

初期療法…発症する2週間ほど前から飲み始めて発症を抑えます。(重症者向き)

導入療法…症状が強くなってから薬で症状を抑えます。(一時的緩和)

減感作療法…少しずつアレルゲンを増やしながら体に注射して慣らしていく治療法。唯一アレルギーを治すことができる方法ですが、2～3年かかる上に必ず効果があるとは言えません。

手術療法

花粉が付着する鼻粘膜をレーザーで焼灼することでアレルギー反応が起こらないようにする治療法。

比較的安全ですが、粘膜が再生すると再発すると言われています。

花粉症セルフケア(自分でできること)

基本は“触れない”“取り込まない”“洗い流す”です。

- ①花粉情報に注意する。
- ②飛散の多い時は、外出を控える、窓・戸を閉める、外出時にマスク・メガネを使う。
- ③表面がけけばけした毛織物などのコートの使用は避ける。
- ④帰宅時、衣服や髪をよく払い入室する。 洗顔、うがいをし、鼻をかむ。
- ⑤掃除を励行する



知識が散らばる現代で大切な健康管理

テレビや雑誌など多くの情報があります。民間療法などもあらゆる病気についてあるようです。大切なことは「健康な心と体を保つこと」と言えます。偏った情報に頼らずに、医

療機関に相談するのは健康維持のために非常に有効ではないでしょうか。暖かく穏やかな春を迎えるにあたり、皆様の健康の一助となれば幸いです。

寺岡記念病院 理念

トータル&シームレスケア 全人的で切れ目のない医療提供の推進

スローガン

保健・医療・福祉の統合とネットワーク形成による新地域医療を実践しよう

方針

- ① 地域住民の健康と安心を守る医療機関であり続け、健康地域づくりに貢献します
- ② 医療を受ける人の個々のニーズに応える医療を提供します
- ③ 安全で良質な医療提供のためスタッフの職務能力と人格能力を高めます
- ④ 社会の要請に対応した医療を提供します
- ⑤ 長期的に安定した医療を提供するため健全な経営を行い病院の総合力を高めます

2017年寺岡記念病院 カレンダー

2月	3月	4月	5月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
5 6 7 8 9 10 11	5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8	7 8 9 10 11 12 13
12 13 14 15 16 17 18	12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15	14 15 16 17 18 19 20
19 20 21 22 23 24 25	19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22	21 22 23 24 25 26 27
26 27 28	26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28 29	28 29 30 31
6月	7月	8月	9月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
4 5 6 7 8 9 10	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9
11 12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16
18 19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23
25 26 27 28 29 30	23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30 31	24 25 26 27 28 29 30
10月	11月	12月	
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	
1 2 3 4 5 6 7	5 6 7 8 9 10 11	3 4 5 6 7 8 9	
8 9 10 11 12 13 14	12 13 14 15 16 17 18	10 11 12 13 14 15 16	
15 16 17 18 19 20 21	19 20 21 22 23 24 25	17 18 19 20 21 22 23	
22 23 24 25 26 27 28	26 27 28 29 30	24 25 26 27 28 29 30	
29 30 31			

休診日のご案内

①日曜日・祝日 ②年末年始(12/31・1/1・2・3) ③お盆(8/15・16)

外来受付時間

●平日/午前8:30～11:30 ●土曜日/午前8:30～11:00

外来診察時間

●平日(月～土)/午前9:00～午前12:00 午後1:30～午後5:30

日曜・祝日
以外の
休診日

診察室		月	火	水	木	金	土
内科	1診	松本 寛	武田 昌	城戸 雄一	武田 昌	竹内 康人 (肝臓)	武田 昌
	2診	熊谷 功	熊谷 功	松本 寛	福田 真治	熊谷 功	松本 寛
	3診	中村 真	岡山大学		榎本 剛	榎本 剛	福田 真治
	4診	福田 真治	城戸 雄一	藤原 恵		宮崎 裕子 (脳神経内科)	藤原 恵
	専門外来		西森 久和 (月2回・血液内科)	上野 弘貴 (脳神経内科)	鈴木 英之 (消化器内科)	中村 重信 (月2回・パーキンソン)	榎野 博史 (月1回・腎疾患)
	専門外来	内田 治仁 (月2回・糖尿病)		中川 晃志 (循環器内科)			岩崎 良章 (月2回・肝臓)
脳神経外科	1診	寺岡 暉		寺岡 暉 (第2・4・5週)	寺岡 暉		
	2診	渡辺 高志	渡辺 高志	渡辺 高志	渡辺 高志	渡辺 高志	東京大学 (第2～5週)
	3診	竹信 敦充	竹信 敦充	東京大学	竹信 敦充	竹信 敦充	竹信 敦充
	4診			串原 義啓		三浦 啓介	てんかん外来(月1回)
	専門外来		東京大学	東京大学		脳健診	頭痛外来(月2回)
外科	1診	花畑 哲郎	浦久保 直澄	花畑 哲郎	浦久保 直澄	花畑 哲郎	花畑 哲郎
	2診	岡山大学	花畑 哲郎	浦久保 直澄	戸嶋 俊明	浦久保 直澄	浦久保 直澄
	専門外来				大澤 晋 (心臓血管外科)		
整形外科	1診	休 診	小坂 義樹	小坂 義樹	岡山大学	小坂 義樹	小坂 周 (第1週 第2～5週)
	2診	休 診	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹	
	小児整形			小坂 義樹			
	形成外科			岡山大学			岡山大学 (第2・4週)
泌尿器科	1診	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二

2017.2.1現在

【専門外来】

糖尿病	月(月2回)	午後2:00～4:00(予約制)	早期認知症診断	月・火・水・金	午後2:00～4:00(予約制)
血液内科	火(月2回)	午前9:00～12:00(予約制)	脳血管障害	火・水	午後2:00～4:00(予約制)
消化器内科	木	午前11:00～12:00(予約制)	頭痛	土(月2回)	午前9:00～12:00(予約制)
循環器内科	水	午後2:00～4:00(予約制)	てんかん	土(月1回)	午前9:00～11:00(予約制)
肝臓	金	午前9:00～12:00(予約制)	心臓血管外科	木	午前9:00～12:00(予約制)
パーキンソン病	金(月2回)	午後2:00～4:00(予約制)	小児整形外科	水	午後2:00～2:30(予約不要)
腎臓	土(月1回)	午前10:00～12:00(予約制)	形成外科	水・土(月2回)	午前10:00～11:00(予約制)
肝臓	土(月2回)	午前9:00～12:00(予約制)	総合診療科	月・水・木・土	午前9:00～11:00(予約不要)
もの忘れ	月・火・水・木・土	午前9:00～11:00(予約不要)	ストーマ外来	第3木曜日	午後2:00～4:00(予約制)

地域医療連携室

外来・入院紹介 TEL.0847-40-3656

FAX.0847-40-3657

CT・MRI検査予約 TEL.0847-51-8045

本誌について、ご意見ご感想がございましたら、是非お聞かせください。

寺岡記念病院

TEL.0847-52-3140(代) FAX.0847-52-2705

通所リハビリテーション「フォース」

TEL. & FAX.0847-52-7655

ローカルコモンズ・ウィル

TEL. 0847-54-0620(代)



発行: